

(1) 次の会話を読み、後の問いに答えましょう。

先生

比喩表現には、直喩と隠喩があります。



直喩は『まるで〜のようだ』などのように、たとえであることを示す語句が使われています。皆さんも知っている『ごんぎつね』にも、直喩が使われていることに気付きましたか。もう一度読んで、探してみてください。

第二場面の「墓地」には、ひがん花が、赤いきれのようにさき続いていました。」に使われています。

同じ第二場面の「いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、今日はなんだかしおれていました。」にも使われています。

少し気をつけて読むと、気付くこともありますね。第四場面の「中山様のおしろの下を通って、少し行くと、細い道の向こうから、だれか来るようです。」の文には使われていますか。さつき、私たちが見つけたのと、似ている言葉が使われているけど……。

愛川さん

先生

愛川さん

平塚さん

問一

平塚さんが気付いた比喩表現を説明する次の文の□にあてはまる言葉を後のア〜エまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

この文では、□①を□②にたとえている。

ア 墓地

イ ひがん花

ウ 赤いきれ

エ 空

②

ウ

①

イ

問二

愛川さんが気付いた比喩表現を説明する次の文の□にあてはまる言葉を後のア〜クまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

いつもの顔を□①にたとえ、今日の顔を□②と表現することで、

□③様子を□④表現している。

- ア 赤いさつまいも
- イ 元気のいい顔
- ウ なんだか
- エ しおれている
- オ がっかりしている
- カ 楽しい
- ク ふくぎつに

①

ア

②

エ

③

オ

④

キ

問三

先生が取り上げた第四場面の文を説明したものとして最も適切なものを、次のア～エまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 登場人物が、細い道の向こうから、だれかが来ることに気付いた様子を表しているので、比喻ではない。

イ 中山様のおしろの下の道が、どこまでも続く細い道だということを表しているので、比喻ではない。

ウ 細い道を歩いてくる人を、中山様にたとえているので、比喻である。

エ 中山様のおしろの下の道を、細い道の向こうにたとえているので、比喻である。

ア



「だれか来るようです」の「ようです」は、「おそらく(たぶん)」のようだと同じ意味で、はっきりしないことを予想して伝える時に使う言葉遣いだから、あるものを別のものに例える比喻とは違うね。

(2) 次の会話を読み、あとの問いに答えましょう。

先生

隠喩いんゆというのは、「まるで」のようだ」などの語句を用いずに、あるものを別のものにたとえる表現です。

平塚さん

へえ。そうなんだ。でも、どうやってたとえるのだろう。何となくは分かるけど、具体的な例があると分かりやすいな。

愛川さん



『虹は大空にかかる橋だ。』はどうか。

先生

そうそう。虹を橋にたとえているけど、『まるで』のようだ』などの直接たとえる言葉を使っていないね。とてもよい例文ですね。

問四

次のア～オの例文の中から、隠喩を用いた表現のものを三つ選び、記号で答えましょう。(答えは順番どおり書かなくてもよいです)

ア 子どもはこの町の宝だ。

イ 時は金なり。

ウ 彼は風のように走る。

エ 太陽のように明るい人柄だ。

オ 人生は長い旅だ。

ア

イ

オ

